

# 平成 30 年度社会教育施設評価書（目標設定・実施結果）

施設名 近代美術館

評価基準 (達成度)	達成 (目標値 $\geq$ 100%)	○
	ほぼ達成 (目標値 $\geq$ 80%)	△
	未達 (目標値 $<$ 80%)	×

## ○全館共通項目

		取組の内容		自己点検		
		1年間の目標値	実現方策	達成値	達成度	課題・対応の方向
利用状況	利用者満足度	90%	アンケートに示された意見を活用して改善を行う	89.6%	△	展覧会の内容と解説への評価を高める工夫を行う。
	入館者	103,385人	広報に努め一層の集客を図る	141,150人	○	障がいのある方等も含め引き続き入館者の増加に努めていく。
	教育・普及事業への参加者	増加させる (前年度) 3,621人	ニーズを汲み充実を図る	8,669人	○	ワークショップの参加方法を多様化し、引き続き教育・普及事業への参加者増加に努めていく。
	Twitterアクセス	増加させる (前年度) 533,453件	改修したホームページを活用して訪問者のニーズに応える	735,824件	○	即時性を高めつつ、引き続き訪問者数を増加させ、ニーズに応えられるように努めていく。
資料・収蔵品	活用	増加させる  (前年度) 332点  25件 22件 37件  416件	県民共有の財産との観点から有効活用を努める  館内展示利用数  特別利用許可申請数  館外貸出件  画像貸出件数  計	  286点  33件 15件 37件  371件	△	他の美術館や企業との連携を深めるほか、デジタルアーカイブの充実により、収蔵品の更なる活用に努めていく。
	維持管理	美術作品の保存に適正な環境を維持	PFI事業者による保存環境の維持履行を求め、職員として適正な取扱いを実施	ほぼ達成	△	業務計画書で定めた要求水準書において、一部改善を要する点があることから、PFI事業者への働きかけを強めていく。

調査研究	研究成果の公開 (発表・印刷物等)	増加させる  (前年度) 42件  17件  3件  4件  66件	研究成果を積極的に公開し美術館員の学術成果を発信する  文献等の執筆数  研修会の講師派遣数  研究集会での発表件数  競争的外部資金の獲得件数  計	39件  18件  8件  6件  71件	○  研究成果の活用と展覧会の充実の双方を図るため、積極的に競争的外部資金の獲得に注力していく。
	情報発信	増加させる (前年度) 2,190件  10件  373件  2,573件	ツイッターフォロワー数  プレスリリース数  記事等掲載数  計	2,541件  9件  265件  2,815件	○  引き続き、ツイッター等 SNS による発信に取り組むとともに、平成 30 年度は、学芸員がテレビ取材への対応で展覧会の魅力を伝える等、映像メディアの活用により、観覧者増に寄与した。今後も新聞記事のみならず、テレビ、企業のホームページとの連携等、多様な媒体を活用していく。
施設運営等	事業等収入及び 観覧料	43,562千円	展覧会の鑑賞を通じて県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図る	53,222千円	○  幅広い年代層を引き込めるような展覧会を企画するとともに、日頃の調査研究成果を反映した親しみやすい図録を作成することにより、引き続き観覧者及び事業等収入の増加に努めていく。
	施設点検	(記述式) 一層魅力ある施設を作る	職員自ら他者目線で点検する	職員自ら PFI 事業者とともに施設を他社目線で確認し、修繕箇所や不備がないか確認を行った。発見した修繕箇所等は、修繕計画へ反映させている。	○  誰にも開かれたインクルーシブな美術館を目指し、点検を行い発見した点について、修繕計画や事業計画へ反映させ、着実に実行していく。

自己研鑽及び他館の研究	(記述式) 積極的に 研修に参 加させる とともに 他館との 情報交換 ・共有に 有益な会 議等への 参加を増 やす	職員の研修 の機会をつ くり、専門分 野を磨く。自 分達を客観 視してヒン トを得るた め、他館をリ サーチして 学び、館運 営を省みる。	会議等参 加件数 前年度： 21回  平成30年 度：31回	○	国内外の美術館との情報交換・共有の ため、前年度よりも積極的に会議へ参 加した。引き続き積極的な情報交換・共 有に努めていく。
-------------	---	---	--	---	--

注) 各論は各館独自の取組みを中心に評価項目や指標を設定する。